

ブドウ（有核・雨除け栽培）の栽培・防除暦（令和7年版）

鹿児島県園芸振興協議会始良支部（果樹部門）

月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除		100g 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日・散布量 記入欄 (基幹防除)
					FRACコード(殺菌剤)	IRACコード(殺虫剤)			
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理, 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は園外に持ち出す 防風垣を整備し, 園内の通風換気良くする				
2				◎晩腐病, 黒とう病	デランフロアブル M9 200倍 又は パスポート顆粒水和剤 M5 250倍	500cc 400g	※石灰硫黄合剤との混用はさける ※デランフロアブルはかぶれやすい人は使用を さけた方がよい	月 日 記	
3	中 下	萌芽直前 萌芽期	ビニル被覆 灌水	◎べと病 黒とう病	キノンドーフロアブル M1 600倍	166cc		月 日 記	
4	上 中 下	発芽期 展葉期 展葉7~8枚	芽かき 新梢誘引 フラスター液剤(500倍)散布	◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病 ◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病	ジマンダイセン水和剤 M3 1,000倍 ジマンダイセン水和剤 M3 1,000倍	100g 100g	※病害は十分な散布量(300g/10a以上)で初 期発生を確実に抑える ○アカガネサルハムシ スミチオン水和剤40 IB 1,000倍 ※病害発生防止のため, 湿度が上がらないよう に換気する	月 日 記 月 日 記	
5	上 中 下	開花前 開花初期 開花直後 落花期 果粒肥大期	新梢誘引 花穂整形 花がら落とし 摘粒(※ハサミ傷注意!)	◎灰色かび病, 晩腐病 ◎灰色かび病, 晩腐病, うどんこ病, 黒とう病 ◎チャノキイロアザミウマ	スイッチ顆粒水和剤 9,12 2,000倍 フルーツセイバー 7 1,500倍 コルト顆粒水和剤 9B 3,000倍	50g 66g 33g	※灰色かび病は耐性菌発生の恐れがあるた め, 同一農薬を連用しない ○灰色かび病, 晩腐病, 褐斑病 ミギワ20フロアブル 52 2,000倍 ○灰色かび病, うどんこ病, 褐斑病 カナメフロアブル 7 4,000倍 ○チャノキイロアザミウマ アクタラ顆粒水溶剤 4A 2,000倍 ○うどんこ病, 晩腐病, 褐斑病, 灰色かび病 ポリペリン水和剤 M7,19 1,000倍 (60日前まで) ○べと病 ジャストフィットフロアブル 43,40 5,000倍 (30日前まで) ○コウモリガ ガットサイトS(21日前まで) 1B 原液~1.5倍 ロビンツド(前日まで) 3A (食入孔にノズルを差し込み噴射) 【袋掛け後】 ○チャノキイロアザミウマ(多発時) ダントツ水溶剤 4A 2,000倍 エクシレルSE(アザミウマ類) 28 5,000倍 ※上記2剤とも前日まで ○ハダニ類 スターマイトフロアブル 25A 2,000倍 (14日前まで) ダニコングフロアブル 25B 2,000倍 (収穫前日まで) ○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10 28 5,000倍 (前日まで)	月 日 記 月 日 記 月 日 記	
6	上 中 下	果粒肥大期 (大豆粒期) 硬核期	摘粒(※ハサミ傷注意!) 袋掛け 新梢誘引 ビニル除去	◎晩腐病, 褐斑病 うどんこ病, 黒とう病 ◎アザミウマ類, ハマキムシ類 ◎褐斑病, 黒とう病, うどんこ病 ◎べと病	【袋掛け前】 オンリーワンフロアブル 3 2,000倍 ディアナWDG 5 5,000倍 【ビニル除去前】 ネクスターフロアブル 7 1,500倍 (7日前まで) ランマンフロアブル 21 2,000倍 (14日前まで)	50cc 20g 66cc 50cc	○べと病 オロネンフルトラSC 49,40 2,000倍 (14日前まで) エトフィンフロアブル 22 1,000倍 (7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 3 2,000倍 (前日まで) ※スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日 記 月 日 記	
7	上 中 下	果粒軟化期 着色開始	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュボルドーDF M1 500倍 又は ICボルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg	○ハダニ類 スターマイトフロアブル 25A 2,000倍 (14日前まで) ダニコングフロアブル 25B 2,000倍 (収穫前日まで) ○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10 28 5,000倍 (前日まで) ○べと病 オロネンフルトラSC 49,40 2,000倍 (14日前まで) エトフィンフロアブル 22 1,000倍 (7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 3 2,000倍 (前日まで) ※スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日 記	
着色促進対策(巨峰・ピオーネ)【着色始期~着色開始2週間後】 アブサップ液剤の果房散布(100倍, 1果房当たり2~10ml) ※着色先行のため, 収穫前に糖度等の果実品質を確認する!									
8	上 中 下	成熟期	収穫始め					○白紋羽病 フロンサイドSC 29 500倍 【50~100g/樹】 ※灌注器で樹幹から半径1m程度の範囲で数 力所に灌注処理(かぶれに注意!)	
9	下		収穫終わり 初秋肥	◎べと病 ◎ブドウトラカミキリ	ムッシュボルドーDF M1 500倍 又はICボルドー48Q M1 30倍 スミチオン水和剤40 IB 800倍	200g 3.3kg 125g	※ブドウトラカミキリ発生時 ダントツ水溶剤を加用 4A 2,000倍	月 日 記	
10				◎べと病	ムッシュボルドーDF M1 500倍 又は ICボルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg	※早期落葉を避け, 初霜まで葉を保つ	月 日 記	
11	中	落葉前後	秋肥	◎べと病	ムッシュボルドーDF M1 500倍 又は ICボルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg		月 日 記	
12	上 中	休眠期	土づくり・排水対策 (堆肥, 苦土石灰, 中耕) 縮間伐, 整枝・せん定, 巻づる 除去						

注1)この防除暦は令和6年12月11日現在の登録内容を掲載したものです(※農薬使用時期・使用回数等については, 別紙参照)。

注2)農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前に表示ラベルを熟読してください。

【施肥基準例】

◎蜜のめぐみ1号(7-3-3)使用の場合(10a当たり)

時期	生産量		
	0.5t	1.0t	1.2t
初秋肥 9月下旬	0.4袋	0.7袋	0.8袋
秋肥 11月中旬	1.7袋	2.8袋	3.4袋
堆肥 12月上旬	完熟牛ふん堆肥500kg		
苦土石灰 12月上旬	100kg		

※収穫後葉色の濃い園では, 初秋肥を施用しない

【施肥基準例】

薬剤名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び萌芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200g/10a	1回
フラスター液剤(巨峰・施設栽培)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉7~11枚時(開花始期まで)	散布	500~800倍	100~150g/10a	2回
アブサップ液剤(巨峰・ピオーネ)	着色促進	着色始期~着色開始2週間後	果房散布	100~200倍	1果房当たり2~10ml	1回

※使用薬剤, 時期, 濃度, 量, 方法については, 品種ごとにラベルを熟読の上使用する

◎農薬の安全使用基準を遵守するとともに, 生産履歴の記帳を行いましょう!

◎農薬散布時は飛散防止に努めましよう!